

事業名	栃木県特別支援学校教育振興会参画事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs 該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	教育部	予算中事業名	会計	一般	事業計画	単年度繰返し						
	課	学校教育課						栃木県特別支援学校教育振興会参画事業	予算	10	新規or継続	継続事業	
政策体系	係	学務係	根拠法令、条例等	科目	目	2	義務or任意	義務的的事业					
	体系コード	411							名称	学校教員	1	市単独or国県補助	市単独事業
	基本目標	4							豊かな心を育み、学び合うまちづくり	学校	2	義務or任意	義務的的事业
	政策	1							豊かな心と確かな学力を育むまちづくり	期間	開始年度	H17	実施方法
施策	1	特色ある教育と心の教育の推進	条の2	終了年度	-	事業分類	参画事業						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	栃木県特別支援学校教育振興会を支援し、市町村負担金を支出するための事業。
------	--------------------------------------

(2) 目的

(3) 目標値

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	栃木県特別支援学校教育振興会とは、特別支援教育に対する認識を高め、その振興を図る目的で栃木県特別支援学校の教職員及び、県内市町村を会員として構成している団体であり、負担金を支出することで、県内特別支援学校の活性化を図る。	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		特別支援学校在籍者数	人	2,511	2,469	2,479	2,479	2,479

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

(2) 活動を説明する数値データ及び事業費の推移

活動実績 (R5年度に行った主な活動内容)	栃木県特別支援学校の活性化、年間6回の会議を開催、8地区の作品展を開催、情報共有などのため開催している。事務局は、県の特別支援学校に設置されており、特別支援学校内で当番制となっている。(R5年度は、栃木県立盲学校) 団体が主催する研修等に教員が参加する。	活動指標	単位	R3	R4	R5
		負担金の交付回数	回	1	1	1
		事業費計	千円	18	17	18
		一般財源	千円	18	17	18
		特定財源(国・県・他)	千円	0	0	0
		(うち受益者負担)	千円	0	0	0

(3) 活動による効果

(4) 事業効果を説明する数値データの推移

↓選択して下さい

効果説明 (定量及び定性)	特別支援学校在籍児童生徒が、個の適正にあった指導を受けることができる。	効果指標	単位	R3	R4	R5	指標の性質	R4とR5の比較
		特別支援学校在籍者数	人	2,511	2,469	2,479	面が大きいほど良い	効果が上がった

(5) 費用対効果結果（自動判定）

費用(R5とR4の一般財源増減)	費用の増減無し	※10万円以上の増減により判断	効果		
効果 (R5とR4の指標値増減)	効果が上がった指標数	1指標	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	効果が変わらない指標数	0指標			
	効果が下がった指標数	0指標			
指標全体		効果が上がった			

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和5年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

栃木県特別支援学校教育振興会を支援し、市町村負担金を支出するための事業であり、県内特別支援学校の活性化が図られることから、会の存続中は現状維持と考える。
--

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和6年度及び令和7年度の取組

- 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど）
- 事業効果を上げるための事務改善の検討
- 事業費の見直し検討
- 業務時間効率化のための事務改善の検討
- 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）

取組説明	引き続き、負担金を交付して支援することで、特別支援学校の活性化を図る。
------	-------------------------------------

事業名	栃木県養護教育研究会参画事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs 該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	教育部	予算中事業名	会計	一般	事業計画	単年度繰返し							
	課	学校教育課						栃木県養護教育研究会参画事業	予算	10	新規or継続	継続事業		
政策体系	係	学務係	根拠法令、条例等	科目	目	2	義務or任意	任意の事業						
	体系コード	411							名称	開始年度	H17	実施方法	直営	
	基本目標	4							豊かな心を育み、学び合うまちづくり	事業期間	終了年度	-	事業分類	参画事業
	政策	1							豊かな心と確かな学力を育むまちづくり					
施策	1	特色ある教育と心の教育の推進												

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	栃木県養護教諭教育研究会を支援し、市町村負担金を支出する事業。
------	---------------------------------

(2) 目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	市立学校養護教諭が研修会を通じ、学校保健について県内他市の状況や最新情報を取得することができる。 学校保健の啓発、普及促進に努める。
-------------------------	---

(3) 目標値

効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
会議回数	回	6	6	6	6	6
研修会参加者のべ人数	人	62	62	62	62	62

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

活動実績 (R5年度に行った主な活動内容)	年間4回の会議開催、年2回の研修会により情報交換と情報収集ができた。
--------------------------	------------------------------------

(2) 活動を説明する数値データ及び事業費の推移

活動指標	単位	R3	R4	R5
会議	回	4	4	4
研修会	回	2	2	2
事業費計	千円	15	15	15
一般財源	千円	15	15	15
特定財源（国・県・他）	千円	0	0	0
（うち受益者負担）	千円	0	0	0

(3) 活動による効果

効果説明 (定量及び定性)	学校保健に係る情報が整理できたことで、養護教諭の資質が向上した。
------------------	----------------------------------

(4) 事業効果を説明する数値データの推移

効果指標	単位	R3	R4	R5	指標の性質	R4とR5の比較
会議回数	回	4	4	4	面が大きいほど良い	効果は変わらない
研修会参加者のべ人数	人	62	62	62	面が大きいほど良い	効果は変わらない

↓選択して下さい

(5) 費用対効果結果（自動判定）

費用（R5とR4の一般財源増減）	費用の増減無し	※10万円以上の増減により判断	効果			
効果（R5とR4の指標値増減）	効果が上がった指標数		0指標	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	効果は変わらない指標数		2指標	費用は下がった		
	効果が下がった指標数		0指標	費用の増減無し	○	
	指標全体	効果は変わらない	費用が増加した			

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和5年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

栃木県養護教諭教育研究会を支援し、市町村負担金を支出するための事業であり、市立学校勤務の養護教諭が研修に参加するための費用であるため、会の存続中は現状維持と考える。
--

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和6年度及び令和7年度の取組

取組説明
<input type="checkbox"/> 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど） <input type="checkbox"/> 事業効果を上げるための事務改善の検討 <input type="checkbox"/> 事業費の見直し検討 <input type="checkbox"/> 業務時間効率化のための事務改善の検討 <input checked="" type="checkbox"/> 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）
引き続き、学校保健の普及推進により、養護教諭の資質向上を図る。

事業名	スクーリング・サポート事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし	
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	教育部	予算中事業名	会計	一般	事業計画	単年度繰返し												
	課	教育センター						スクーリング・サポート事業	款	10	新規or継続	継続事業							
政策体系	係	-	根拠法令、条例等	予算科目	目	3	義務or任意		任意的事業										
	体系コード	411						-		事業期間	開始年度	H15	実施方法	直営					
	基本目標	4													豊かな心を育み、学び合うまちづくり	終了年度	-	事業分類	相談事業
	政策	1													豊かな心と確かな学力を育むまちづくり				
施策	1	特色ある教育と心の教育の推進																	

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	教育センターにスクーリング・サポーター1人を配置し、学校・保護者・児童生徒に対する助言・援助等を行い、特別な教育的支援を必要とする児童生徒の支援等を行う。
------	---

(2) 目的

(3) 目標値

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	特別な支援を必要とする市立学校の児童生徒が、適切な個に応じた教育的支援を受けることができる。	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		個別の教育支援計画作成の児童生徒の割合	%	40.3	85	90	95	100
		特別支援教育に力を入れていると感じる割合	%	42	44	46	48	50

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

(2) 活動を説明する数値データ及び事業費の推移

活動実績 (R5年度に行った主な活動内容)	・学校への巡回相談、ケース会議への参加 ・個別の心理検査の実施	活動指標	単位	R3	R4	R5
		支援回数	回	129	152	194
		事業費計	千円	603	611	685
		一般財源	千円	603	611	685
		特定財源（国・県・他）	千円			
		（うち受益者負担）	千円			

(3) 活動による効果

(4) 事業効果を説明する数値データの推移

↓選択して下さい

効果説明 (定量及び定性)	スクーリング・サポーターによる学校への支援により、特別な支援を必要としている児童生徒に対する適切な個に応じた教育的支援につなげることができた。	効果指標	単位	R3	R4	R5	指標の性質	R4とR5の比較
		個別の教育支援計画作成の児童生徒の割合	%	71.5	93.0	96.8	面が大きいほど良い	効果が上がった
特別支援教育に力を入れていると感じる割合	%	41.1	43.8	41.8	面が大きいほど良い	効果が下がった		

(5) 費用対効果結果（自動判定）

費用（R5とR4の一般財源増減）	費用の増減無し	※10万円以上の増減により判断	効果			
効果（R5とR4の指標値増減）	効果が上がった指標数		1指標	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	効果は変わらない指標数		0指標			
	効果が下がった指標数		1指標			
	指標全体	効果は変わらない				

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和5年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

巡回相談及び個別の心理検査によるアセスメントが、教職員の指導力向上及び児童生徒の変容に適切につながっているか検討する必要がある。
--

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和6年度及び令和7年度の取組

- 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど）
- 事業効果を上げるための事務改善の検討
- 事業費の見直し検討
- 業務時間効率化のための事務改善の検討
- 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）

取組説明	巡回相談及び個別の心理検査後における教職員の指導力向上及び児童生徒の変容を確認するため、関係者から聞き取りなどを行い、教職員や児童生徒の実態把握に努める。
------	---

事業名	巡回相談事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs 該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	教育部	予算中事業名	会計	一般	事業計画	単年度繰返し										
	課	教育センター						巡回相談事業	予算科目	10 新規or継続	継続事業						
政策体系	係	-	根拠法令、条例等	目	3 義務or任意	市単独or国県補助	市単独事業										
	体系コード	411						-	事業期間	H30	実施方法	任意の事業					
	基本目標	4 豊かな心を育み、学び合うまちづくり											開始年度	終了年度	-	事業分類	直営
	政策	1 豊かな心と確かな学力を育むまちづくり															
施策	1 特色ある教育と心の教育の推進																

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	発達障がい等により特別な支援や配慮が必要な児童生徒を対象にした巡回相談・発達検査を実施し、学校や保護者への指導助言を通して、対象児童生徒への支援の充実を図る。
------	---

(2) 目的

(3) 目標値

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	特別な教育的支援を必要とする児童生徒への、教職員の指導力が向上し、効果的な支援ができるようにする。	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		個別の教育支援計画作成の児童生徒の割合	%	40.3	85	90	95	100
		特別支援教育に力を入れていると感じる割合	%	42	44	46	48	50

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

(2) 活動を説明する数値データ及び事業費の推移

活動実績 (R5年度に行った主な活動内容)	・学校への巡回相談 ・個別の心理検査の実施	活動指標	単位	R3	R4	R5
		巡回相談員の人数	人	18	16	20
		巡回相談の実施回数	回	88	88	93
		事業費計	千円	660	660	698
		一般財源	千円	660	660	698
		特定財源（国・県・他）	千円			
		（うち受益者負担）	千円			

(3) 活動による効果

(4) 事業効果を説明する数値データの推移

↓選択して下さい

効果説明 (定量及び定性)	巡回相談や個別の心理検査によるアセスメントにより、特別な支援を必要としている児童生徒に対する適切な個に応じた教育的支援につなげることができた。	効果指標	単位	R3	R4	R5	指標の性質	R4とR5の比較
		個別の教育支援計画作成の児童生徒の割合	%	71.5	93.0	96.8	面が大きいほど良い	効果が上がった
		特別支援教育に力を入れていると感じる割合	%	41.1	43.8	41.8	面が大きいほど良い	効果が下がった

(5) 費用対効果結果（自動判定）

費用（R5とR4の一般財源増減）	費用の増減無し	※10万円以上の増減により判断	効果			
効果（R5とR4の指標値増減）	効果が上がった指標数		1指標	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	効果は変わらない指標数		0指標			
	効果が下がった指標数		1指標			
	指標全体	効果は変わらない				

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和5年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

教職員や保護者の特別支援教育への理解が進み、学校からは年々巡回相談や発達検査の依頼が増加している。 巡回相談及び個別の心理検査によるアセスメントが、教職員の指導力向上及び児童生徒の変容に適切につながっているか検討する必要がある。

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和6年度及び令和7年度の取組

- 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど）
- 事業効果を上げるための事務改善の検討
- 事業費の見直し検討
- 業務時間効率化のための事務改善の検討
- 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）

取組説明	巡回相談及び個別の心理検査後における教職員の指導力向上及び児童生徒の変容を確認するため、関係者から聞き取りなどを行い、教職員や児童生徒の実態把握に努める。
------	---

事業名	特別支援教育研究会作品展開催支援事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs 該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	教育部	予算中事業名	会計	一般	事業計画	単年度繰返し	
	課	教育センター						特別支援教育研究会作品展
政策体系	係	-	開催支援事業	予算科目	項	1	市単独or国県補助	市単独事業
	体系コード	411	名称		目	3	義務or任意	任意的事業
	基本目標	4	豊かな心を育み、学び合うまちづくり		目	3	義務or任意	任意的事業
	政策	1	豊かな心と確かな学力を育むまちづくり	事業期間	開始年度	H3	実施方法	直営
施策	1	特色ある教育と心の教育の推進	-	終了年度	-	事業分類	支援事業	

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	市立学校の特別支援学級に在籍する児童生徒の作品展への支援を行う。
------	----------------------------------

(2) 目的

(3) 目標値

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	市立学校の特別支援学級在籍児童生徒が、個に応じた指導を受けられることができる。	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		個別の教育支援計画作成の児童生徒の割合	%	40.3	85	90	95	100
		特別支援教育に力を入れていると感じる割合	%	42	44	46	48	50

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

(2) 活動を説明する数値データ及び事業費の推移

活動実績 (R5年度に行った主な活動内容)	・特別支援学級児童生徒作品展「たんぼ作品展」(12月2日～3日 葛生あくとプラザ)の賞状代を補助	活動指標	単位	R3	R4	R5
		研究会参加学校数	校	25	26	22
		事業費計	千円	33	32	35
		一般財源	千円	33	32	35
		特定財源(国・県・他)	千円			
		(うち受益者負担)	千円			

(3) 活動による効果

(4) 事業効果を説明する数値データの推移

↓選択して下さい

効果説明 (定量及び定性)	特別支援学級に在籍する児童生徒による作品展を通して、特別支援学級児童生徒の作品や指導の成果の一端を広く知ってもらい機会となり、市民の特別支援教育理解に一定の効果は上げている。	効果指標	単位	R3	R4	R5	指標の性質	R4とR5の比較
		個別の教育支援計画作成の児童生徒の割合	%	71.5	93.0	96.8	面が大きいほど良い	効果が上がった
		特別支援教育に力を入れていると感じる割合	%	41.1	43.8	41.8	面が大きいほど良い	効果が下がった

(5) 費用対効果結果（自動判定）

費用(R5とR4の一般財源増減)	費用の増減無し	※10万円以上の増減により判断	効果			
効果(R5とR4の指標値増減)	効果が上がった指標数		1指標	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	効果は変わらない指標数		0指標			
	効果が下がった指標数		1指標			
	指標全体	効果は変わらない				

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和5年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

特別支援学級に在籍する児童生徒が増加する中、度々特別支援教育について市議会の一般質問で取り上げられるなど、市民の特別支援教育に対する関心は高まっている。
--

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和6年度及び令和7年度の取組

- 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど）
- 事業効果を上げるための事務改善の検討
- 事業費の見直し検討
- 業務時間効率化のための事務改善の検討
- 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）

取組説明

特別支援教育研究会事務局と連携して、作品展の充実や広報に努める。

事業名	教育支援委員会運営事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし	
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	教育部	予算中事業名	会計	一般	事業計画	単年度繰返し								
	課	学校教育課						予算	款	10	新規or継続	継続事業			
政策体系	係	学務係	教育支援委員会運営事業	科目	項	目	市単独or国県補助	市単独事業							
	体系コード	411							名称	根拠法令、条例等	目	2	義務or任意	義務的の事業	
	基本目標	4							豊かな心を育み、学び合うまちづくり	学校教育法施行令第18条の2、佐野市教育支援委員会条例、佐野市教育支援委員会条例施行規則	事業	開始年度	H 1 7	実施方法	直営
	政策	1							豊かな心と確かな学力を育むまちづくり	事業	終了年度	-	事業分類	審議会等運営事業	
施策	1	特色ある教育と心の教育の推進													

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	心身の障がいのある児童、生徒の適切な就学を図るため、佐野市教育支援委員会を設置して、障がいの種類及び、程度の判定や、就学相談、指導等に関する事務を行う。
------	--

(2) 目的

(3) 目標値

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	心身に障がいがある児童生徒の適切な就学を図る。	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		5/1 児童・生徒数	人	8,074	7,967	7,816	7,743	7,743
		判定した児童生徒数	人	521	632	654	654	654
		保護者との合意形成割合	%	100	100	100	100	100

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

(2) 活動を説明する数値データ及び事業費の推移

活動実績 (R5年度に行った主な活動内容)	佐野市教育支援委員会を開催した。	活動指標	単位	R3	R4	R5
	各学校内教育支援委員会の開催した。	委員会の回数	回	8	8	8
	各学校の就学時健康診断及び、定期健康診断結果から、支援委員会と審査を要する児童に対し判定を行う。	判定した人数	人	521	632	654
	県教育委員会、安足健康福祉センター等関係機関と連携し、心身障がい児の就学相談・指導等を行った。	就学時健康診断受診者	人	837	836	814
	4月1日 委員委嘱	事業費計	千円	334	362	406
	5月1 1日～12月2 1日 教育支援委員会（全8回）	一般財源	千円	334	362	406
	12月末までに保護者宛結果を通知した。	特定財源（国・県・他）	千円	0	0	0
	（うち受益者負担）	千円	0	0	0	

(3) 活動による効果

(4) 事業効果を説明する数値データの推移

↓選択して下さい

効果説明 (定量及び定性)	通常学級、特別支援学級（知的、自情、肢体、難聴等）、特別支援学校への適切な就学及び、言語通級学級指導教室への通級等	効果指標	単位	R3	R4	R5	指標の性質	R4とR5の比較
		5/1 児童・生徒数	人	8,074	7,967	7,816	値が大きいほど良い	効果が下がった
		判定した児童生徒数	人	521	632	654	値が大きいほど良い	効果が上がった
		保護者との合意形成割合	%	100	100	100	値が大きいほど良い	効果は変わらない

(5) 費用対効果結果（自動判定）

費用（R5とR4の一般財源増減）	費用の増減無し	※10万円以上の増減により判断	効果		
効果 (R5とR4の指標値増減)	効果が上がった指標数	1指標	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	効果は変わらない指標数	1指標			
	効果が下がった指標数	1指標			
	指標全体	効果は変わらない	費用は下がった	費用の増減無し	費用が増加した

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和5年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

児童生徒数は年々減少しているが、審査対象となる人数が増加している。会議を開催する時間も限られており、一人あたりの審査に充てる時間が減少傾向となっており、保護者との合意形成が困難になっていくことが考えられる。

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和6年度及び令和7年度の取組

- 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど）
- 事業効果を上げるための事務改善の検討
- 事業費の見直し検討
- 業務時間効率化のための事務改善の検討
- 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）

取組説明

引き続き、市内の心身に障がいがある児童生徒の適正な就学先を検討する。

事業名	特別支援学級支援員配置事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当あり	
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	教育部	予算中事業名	会計	一般	事業計画	単年度繰返し							
	課	学校教育課						課目	10	新規or継続	継続事業			
政策体系	係	指導係	特別支援学級支援員配置事業	科目	項	1	市単独or国県補助	市単独事業						
	体系コード	411							名称	根拠法令、条例等	目	2	義務or任意	任意の事業
	基本目標	4							豊かな心を育み、学び合うまちづくり	事業	開始年度	平成24年度	実施方法	直営
	政策	1							豊かな心と確かな学力を育むまちづくり	期間	終了年度		事業分類	教育・指導事業
施策	1	特色ある教育と心の教育の推進												

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	佐野市における特別支援教育推進事業の一つとして、小・中・義務教育学校の特別支援学級に支援員を配置し、知的障がい、自閉症・情緒障がい、病弱・身体虚弱等により、学習や生活の面で特別な支援を必要とする児童生徒に対し、学力向上、自立、社会参加等に向けた適切な指導と必要な支援を行うことを目的とする。
------	---

(2) 目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	確かな学力及び豊かな心、健やかな体を備えた児童生徒にするとともに一人一人のニーズに応じた教育を受けた児童生徒が充実した学校生活を送れるようにする。
-------------------------	---

(3) 目標値

効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
特別支援教育の充実を感じている市民の割合	%	41.0	43.8	41.8	48.0	50.0
学校生活が楽しいと回答した児童生徒の割合（全国学力調査）	%	86.2	86.0	87.3	100.0	100.0

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

活動実績 (R5年度に行った主な活動内容)	校内体制の整備を図ることを目的とし、市内の小中義務教育学校の内、 ・指導に困難を伴い、特に支援が必要な児童生徒が複数名在籍する特別支援学級に1名を配置 ・在籍する児童生徒の人数が多い特別支援学級に、1名を配置 令和5年度は市内小学校3校と義務教育学校1校に4名の支援員を配置した。	活動指標	単位	R3	R4	R5
		配置校数	校	3	4	4
		配置人数	人	3	4	4
		事業費計	千円	5,440	7,115	7,783
		一般財源	千円	5,425	7,115	2,412
		特定財源（国・県・他）	千円	15	0	5,371
		（うち受益者負担）	千円			

(2) 活動を説明する数値データ及び事業費の推移

(3) 活動による効果

効果説明 (定量及び定性)	R4とR5では、特別支援教育の充実を感じている市民の割合は減少したが、全国学力調査の質問紙「学校が楽しい」と回答した児童生徒の割合は高まった。	効果指標	単位	R3	R4	R5	指標の性質	R4とR5の比較
		特別支援教育の充実を感じている市民の割合	%	41.0	43.8	41.8	値が大きいほど良い	効果が下がった
		学校生活が楽しいと回答した児童生徒の割合（全国学力調査）	%	86.2	86.0	87.3	値が大きいほど良い	効果が上がった

(4) 事業効果を説明する数値データの推移

↓選択して下さい

(5) 費用対効果結果（自動判定）

費用（R5とR4の一般財源増減）	費用は下がった	※10万円以上の増減により判断	効果			
効果（R5とR4の指標値増減）	効果が上がった指標数		1指標	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	効果は変わらない指標数		0指標			
	効果が下がった指標数		1指標			
	指標全体	効果は変わらない				

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和5年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

特別支援学級に在籍する児童生徒数の増加に伴い、支援員の必要性は年々高まっている。継続した配置が必要不可欠である。
--

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和6年度及び令和7年度の取組

取組説明	支援員の配置を継続して、特別支援教育の充実を図っていく。
------	------------------------------

- 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど）
- 事業効果を上げるための事務改善の検討
- 事業費の見直し検討
- 業務時間効率化のための事務改善の検討
- 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）